▼『園芸植物図譜』第2巻第7輯 大正3年
横浜植木株式会社蔵

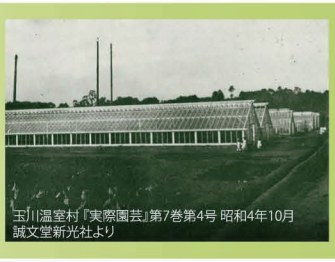
▲馬込産のシクラメン

令和４年度企画展

花咲くおおたの園芸史

～生産される花々～

絵葉書「蒲田菖蒲園」明治40年 当館蔵



玉川温室村『実際園芸』第7巻第4号 昭和4年10月
誠文堂新光社より

令和5年（2023年）1月7日土～3月5日日

開館時間：午前9時～午後5時

休 館 日：月曜日（ただし1月9日は開館）

入場無料

大田区立郷土博物館
Ota City Folk Museum
〒143-0025 大田区南馬込五丁目11番13号 TEL 03-3777-1070 FAX 03-3777-1283

※新型コロナウイルス感染症の影響により、会期が変更・中止となる場合があります。

◀『IRIS KAEMPFERI』横浜植木株式会社蔵

令和４年度企画展

花咲くおおたの園芸史

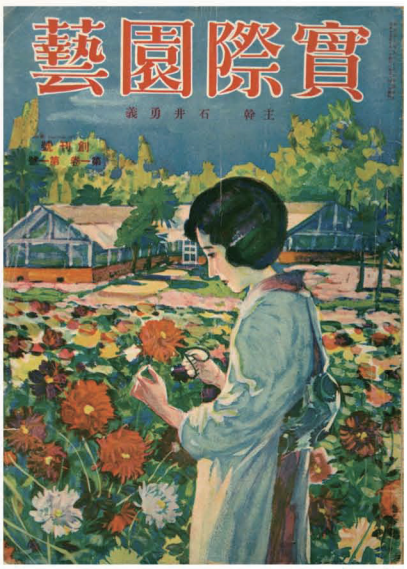
～生産される花々～

大田区の花卉（かき）（観賞用の植物）生産の近代史は、北蒲田村の夏菊栽培に始まります。この地は花卉の栽培に適した土地であったため、古くから切り花生産の盛んな地域として知られていました。そして、明治36（1903）年、花卉が輸出品の主力として盛んに生産されていた当時、輸出用花菖蒲の栽培を目的とした蒲田菖蒲園が誕生しました。

大正時代になると、花卉生産の流行は西洋式の温室を用いた農園の経営に移行します。その中でも大正時代後期から戦後にかけて田園調布とその周辺に集まった大規模な温室を持つ農園群は、その規模の大きさから「玉川温室村」と称され、当時の園芸雑誌で度々紹介されました。この温室村で生産されたカーネーションやバラなどの花卉類は、時を同じくして東京の各地に開設された生花専門の市場に出荷されました。

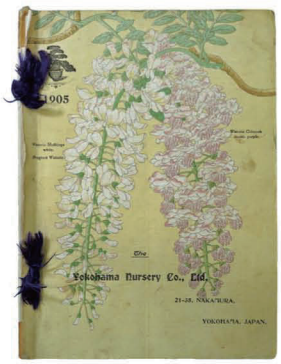
戦後、宅地化により区内の農地の減少が進む一方で、農業協同組合馬込地区の青年部は、新たに「馬込園芸研究会」を発足させてシクラメンの温室栽培を共同で研究し、生産力を高めていきました。そして、その生産は現在も続いています。

本展では、園芸関係資料などをもとにして、明治時代から現代へと続く大田区の花づくりのあゆみをたどります。花卉の栽培と生産の研究を重ねてきた区内の花卉生産者たちの園芸史をぜひご覧ください。



『実際園芸』創刊号 大正15年 当館蔵

馬込園芸研究会 リレー栽培の様子 昭和40年代 波田野章氏蔵



英文カタログ 明治38年
横浜植木株式会社蔵

『園芸要覧』大正10年
横浜植木株式会社蔵

関連展示

「実も成るおおたの園芸史 ～馬込半白の歩みをたどる～」

大田区の馬込地区で特産化した野菜に「馬込半白」（正式名称は馬込半白節成胡瓜）があります。このキュウリは明治30年代に現れ、昭和30年代には市場から消えていった品種で、特に戦前は漬物などにして食べられました。ここでは、大田区で代表的な実をつける園芸植物として馬込半白のあゆみを紹介します。

展示会場：3階特集展示コーナー

関連催事

展示解説

担当学芸員による展示解説を行います。

第一回　1月22日（日）
第二回　2月26日（日）
いずれも午後2時から4時

定員 各日30名

申し込み方法：電話受付 1月11日（水）午前８時30分から（先着順）

赤ちゃんと一緒に博物館へ

ねんじっこおはなしの会による手遊びと
担当学芸員による展示解説を行います。

２月2日（木）午前10時から正午

定員 8組

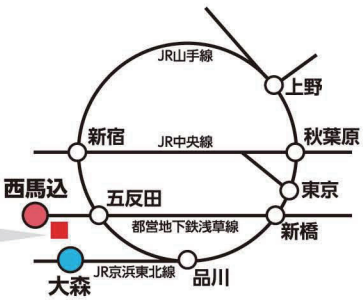
対象：2歳未満の乳幼児とその保護者

申し込み方法：電話受付 1月11日（水）午前８時30分から（先着順）

大田区立郷土博物館
Ota City Folk Museum

〒143-0025 大田区南馬込五丁目11番13号 TEL 03-3777-1070 FAX 03-3777-1283

交通案内

都営地下鉄浅草線
「西馬込駅」東口から徒歩７分

JR京浜東北線
「大森駅」北口改札から東急バス４番乗り場で「荏原町駅入口」行に乗り、「万福寺前」下車徒歩２分